

「自分だけは大丈夫？」

岡山県 玉野市立八浜中学校 1年 弥生 昂

2018年7月5日の夜から滝のように降り始めた雨。6日、学校は休校になりました。その時には、学校が休みという特別感で、事の重大さに気付いていませんでした。

「7河川決壊」「奪われた日常」「増え続ける犠牲者」こんな話題を目にしたのは、8日のことでした。広島県、愛媛県の土砂災害のニュースがながれていました。土砂に埋もれた家や増え続ける犠牲者の情報は、息をのむようなものばかりでした。また、岡山市真備町も大きなニュースになっていました。2階部分まで水に浸かった家や、心痛む被害者の声を見たり聞いたりしていると、止まない大雨や、いつまでもきえない土砂災害や洪水の警報が急に心配になってきました。もしも、この八浜があんな大災害に遭ったらと想像すると、今になっても私はまだ、他人事だと思っているということに気がつきました。八浜の山もいつ崩れるかわからないし、色々な警報も出ているにもかかわらず、なにも行動をおこせませんでした。被害に遭った人の中には、警報や避難勧告がでていたことを知っていた人もいたでしょう。

実際、玉野市内でも土砂災害はおきていました。それにより、道路がふさがれ、我が家の前にある道路に通勤・通学などの車が集中し、早朝から夕方まで大渋滞でした。直接、被害をうけていなくても、交通機関がマヒしたりして、少なからず色々なところで影響はうけるのだということを実感しました。現に父は、いつもの出勤時間を数十分、早めていましたし、スーパーの品物は、とてもうすくなっていて驚きました。どれも実際、被害にあわないと分からない、想像できないことばかりでした。

数年前には、八浜も台風の大雨によって児島湖が氾濫し、土地が低い所に建っている、家などが浸かりました。我が家は、山のふもとに建っています。家の横には、山水をのがす溝があるのですが、そこに土砂がたまり、水があふれ、裏庭が池のようになりました。家が浸水する心配があり、浸水の防止を兄や父がしてくれていました。しかし、そのことは、かすかな記憶しかなく、のこりは聞いた話でしか覚えていません。今回の災害もそのうち忘れてしまうのでしょうか。

人間は、実際に大変な目に遭ったり、自分で確かめたりしないと、その重大さに気づかないのだと思います。私は自分で情報を集め、自分で判断をできるようになりたいと思いました。そこで、土砂災害の前兆や特徴について調べてみることにしました。

すると、土砂災害には3種類のタイプがあることがわかりました。それは、がけ崩れ・地すべり・土石流の3つです。

がけ崩れというのは急激にがけが崩れ落ちることで、八浜でも小さながけ崩れはおこっていました。大きなものだと崩れ始めると、一瞬で家などを飲み込んでしまいます。崩れやすいがけは、木が少なく水が直接しみこむがけや浸食されているがけです。前兆は、湧水の異変や斜面に亀裂がはいつていること、がけから石や枝が落ちてくることなどだそうです。

次に地すべりについて調べてみました。地すべりは、ある程度の形を保ったまま、地面が流れていくことです。地面に亀裂が入ったり、地鳴りがしたりすると、地すべりが始まる合図です。危険な状態です。

土石流は、あまり聞いたことがありませんでした。土石流とは、水を含んだ土砂が川のように流れ落ちることをいい、別名・山津波ともいうそうです。岩石を先頭に流れ落ちるので、大きな被害になります。おこりやすいのは、過去に土石流が発生したことがある場所や土砂の堆積が厚い場所などです。発生する前には、川の水が急に減ったり、山鳴りがしたりするようです。

しかし、前兆はどれもがけに近づかないと分からないので、確認に行くのは危険です。

やはり、人間の力ですべてを防ぐことは難しいのだ、と思いました。私はハザードマップや自治体の呼びかけをふくめ、普段から情報を集めて、正しい判断をして自分の命を守りたいと思います。皆さんには「自分は大丈夫」という考えを捨ててほしいです。「もしも・・・」は、おこるものだと考え、後悔しない判断をしてほしいからです。

今回の災害に学び、日々、意識を高く、生活を送っていきたいと思います。